

# 河上肇の生涯 第一回

河上肇記念会世話人・元京都市会議員

山本正志

これは私が〇八年四月二〇日に「国領五一郎を顕彰する会」でお話した内容を五回にまとめたものです。

まず、河上肇と私の関わりについて、私は一九八七年四月に左京区の市会議員として市会に送り出していただきましたが、その際は河上肇記念会にたいし「自宅が河上肇のお墓がある法然院の近くでもあるのでお墓のお守り役をさせていただきます」と申し出て、記念会の世話人に加えていただきました。

## 河上肇の人物像

最初に河上肇という人はどういう人物かということをごく簡単に紹介しておきます。

- ・一八七九明治十二年一〇月二〇日、山口県岩国に生まれる。山口高校卒業後、東大法科大学政治科に入学。
- ・一九〇八年 京大講師となり翌年助教授。
- ・一九一七年 『貧乏物語』を『大阪朝日新聞』に連載し好評を博す。
- ・一九二八年 文部省の圧力で



法然院の河上肇の墓

経済学部教授会が辞職を求め京大教授を辞職。

- ・一九二九年 山本宣治が右翼のテロで殺されたとき、追悼の演説をする。その後、地下活動に入り日本共産党入党。
- ・一九三三年一月検挙され裁判で懲役五年の判決。



蜷川虎三元京都府知事

- ・一九三七年 出獄、一九四一年十二年ぶりで京都へ移り、『自叙伝』の執筆開始。

- ・一九四五年 衰弱し病床で敗戦の日をむかえ、一九四六年一月三〇日死去。

まず河上肇の人物像ですが、やはり学者であり経済学者です。次にマルクス主義を研究し日本共産党にも加わった革命家でもあります。それとともに当時マスコミでは河上肇の「貧乏物語」はベストセラーとなった第一級のジャーナリストでもありました。晩年は平穏な生活のなかで、中国の陸放翁という詩人の作品を愛読し自身も本格的な漢詩を作ります。

京大教授時代の河上肇に教えを受けた蜷川虎三元京都府知事は「河上先生の講義は、毎年新しいノートをこしらえて新しい話をされた。非常に勤勉でしたね。大教室が満員で、学生のほうで惚れ込んでいて、河上先生の講義だということ他の学部から大勢聞きに来ていましたね」と語っています。

# 河上肇の生涯 第二回

河上肇記念会世話人・元京都市会議員

山本正志

## 青年・河上肇



若いころの河上肇は、大正デモクラシーの時期に活躍した内村鑑三、木下尚江、田中正造などの影響もあって、血気盛んな行動に走りますがここでは二つのエピソードを紹介します。

当時、日本最大の公害といわれる足尾鋳毒事件が、大きな社会問題となっていました。足尾銅山がたれ流す鋳毒の被害を受けた渡良瀬川沿岸の農民の生活を守るために、古河財閥と天皇制政府の責任をきびしく追求したのが田中正造代議士です。被害地農民の救援を訴える田中正造の講演をきいて感動した河上青年は、もっていた衣類のことごとくをカンパして、関係者をおどろかせ、新聞にも「特志の大学生」と報道されました。

もう一つは、大学を卒業してしばらくたった一九〇五（明治三十八）年のことです。河上肇は当時の『読売新聞』に千山万水楼主人のペンネームで「社会主義評論」と題するエッセイを連載し、おかげで新聞の購読者が激増したといわれるほどの好評を得ていました。ところが河上肇は、自分の態度に疑問を感じたらしく、突然執筆を打ちきり、そしてこのころ担当していた五つの大学や

専門学校の教職もいっさい辞職して、妻子を郷里に帰して、伊藤証信という人がおこしていた一種の新興宗教運動「無我愛」の運動にとびこみました。ところが、この運動がとねえる絶対的非利己主義のスローガンの中身を体験するとたちまち失望して、二カ月でそのグループ無我苑をとびだしてしまいました。

## ベストセラーとなった貧乏物語

河上肇は、一九〇八年（明治四十一年）年、二九歳のとき京都帝国大学にむかえられました。そしてヨーロッパに留学の後、一九一六年に大阪朝日新聞に「貧乏物語」を連載、格調の高い文章で貧困の問題を経済学の問題として取り上げた著作として大きな反響を呼び、単行本にまとめられベストセラーとなりました。

しかしやがて河上肇はこの貧乏物語を絶版にします。なぜか、それは彼が弟子の榎田民蔵に批判されてこの著作に決定的な欠陥があることに気づいたからです。当時の河上肇は、貧乏を世の中からなくするには、「富豪、資本家としての責任を自覚したならば国内における社会問題を平和的に解決しうる」とのべて資本家に期待して精神主義の説教で解決すると主張していたのです。

ここから河上肇のマルクス主義への接近が始まりますが、それには日本社会の大きな変化も底流となつていきます。



# 河上肇の生涯 第三回

河上肇記念会世話人・元京都市会議員

山本正志

## マルクス主義への接近

彼の思想の変化・発展には二つの要因がからんでいます。一つは時代背景が変わってきていたことです。一九一七年にロシア十月社会主義革命がおき、国内では一九一八年の米騒動を期に、労働者、農民などの組織や運動が展開されます。もう一つは河上肇が他の経済学者と違うところですが、実践活動にかかわっていたということです。

京都に当時労働組合の草分けとして友愛会の支部が組織され、京大の学生で河上の教え子の高山義三が支部長になります。当時奥村電気争議がげしく闘われますが、河上肇は理論面だけでなく演説もやったり資金援助もしています。これによって河上肇の思想と生活は大きく変わります。第二貧乏物語が一九二九年に出ますが、目次を見ても「弁証法的唯物論、史的唯物論、商品、剰

余価値、共産主義社会への願望」ということで明らかにマルクス主義理論を土台としたの著作になっています。

この河上肇をしたって多くの学生が集まり、また著作は大きな社会的影響を呼び起しますが、その中には、戦後京都市長になった



高山義三、知事になった蜷川虎三はもちろんのこと、経済学者や共産党員も多くいました。東京都知事をつとめた美濃部亮吉も、今でも貧乏物語を読んだ時の感激を思いだす。経済こそ一生をかけて勉強するべき学問だと考えた」と書いています。

河上肇の裁判で懲役五年の判決を下した裁判長の藤井吾一郎という人は戦後も公安調査庁長官をつとめた人物ですが、彼も河上肇に尊敬の念を持っていたことを東京河上会での講演で話しています。

## マルクス主義への到達

やがて、一九二二年に日本共産党が結成されますが、世界的な恐慌がおき、一方では朝鮮・中国への侵略計画をすすめる天皇制政府の弾圧も厳しくなります。

一九二五年、河上肇の教え子たちの多くが京大連事件にかかわって逮捕されますが、一九二八年、文部省は京大当局に圧力をかけ、経済学部教授会は河上の退職を決議します。彼は、この辞職勧告は筋のとおりぬまちだという批判をもっていました。が、教授会の自治というルールは尊重し、これに従うとして辞表を提出しました。彼が四九歳のときです。

河上肇のマルクス主義に対する確信は一層強くなっていきます。「顧みれば、私のマルクス説への完全なる推移は、軽蔑に値するほどの多年に亘る躊躇と折衷的態度との後に、遂に実現されたものである。だが思索研究の久しきを経て漸くここに到達しえたる代りには、私は今たとい火にあぶられるとも、その学的所信を曲げがたく感じている」と書いています。

# 河上肇の生涯 第四回

河上肇記念会世話人・元京都市会議員

山本正志

## マルクス主義研究から日本共産党員に

当時、非公然の活動を展開していた日本共産党に対して、一九二八年の三・一五事件に続き翌年の四・一六事件と相次ぐ弾圧が加えられ、一九二九年三月五日には山本宣治が右翼に暗殺されますが、河上肇は追悼集会で演壇に立っています。

こうしたきびしい状況にあつて、河上肇はついに書齋から街頭に出て実践活動に加わっていきます。この時期に「第二頁の物語」を出版しますが、権力のきびしい追及のなかで家をでて地下活動に入ります。

一九三二年九月九日、日本共産党は河上肇の入党を承認します。法然院墓地の歌碑に刻まれた「たどりつき ぶりかへりみれば山川を 越えては越えてきつるものかな」の文は、日本共産党に入党したときの感慨を隠れ家で感慨にふけり詠んだものです。

河上肇は地下活動の中で共産党の求めに応じて「コミンテルン三二年テーゼ」の翻訳をして届けるなど彼ならではの努力を続けます。一九三三年一月、ついに地下生活一四〇日で特高警察に東



京・中野区のかくれ家で  
検挙され、治安維持法違反で起訴されて懲役五年の判決を受け獄中生  
活に入ります。

## 獄中の河上肇

当時、佐野学ら天皇制権力に屈服した共産党最高指導部の何人が「転向声明」を発表し党員や活動家に大きなショックを与えました。

権力側は獄中でも、大きな社会的影響力をもっている河上肇を転向させることをはかつて誘惑します。河上肇は「獄中独語」なる文書を書いて提出、その中で、私は今後実際活動とは 合法的、非合法的を問わず、関係を絶ちもとの書齋に隠居する」と宣言しました。

やがて刑期の三分の一をすぎると、河上肇は「仮釈放」に期待して迷いました。この時期の河上肇と面会にきた妻・秀との会話が自叙伝にはあります。

「まるまるお勤めになつても、あともう三年足らずの御辛抱です。お辛いことは重々お察し致しますが、無理をしてお出になると、折角早く出ていらしても、あとできつと後悔なさるに決っています。無事に勤め上げてお出になりましたのなら、今度こそ、そりやもう一生の重荷を卸したというお気持で、気楽に余生を楽しんでいただきたい。私はそればかり祈つてるんです」これをき

いて河上肇の腹はきまり、獄中生活を貫きました。

一九三七年六月一日、刑期を満了して、五七歳の河上肇は獄外の人となりました。



秀夫人

# 河上肇の生涯 第五回

河上肇記念会世話人・元京都市会議員

山本正志

## 晩年の河上肇

出獄後も河上の身辺はいつも特高警察に監視されていました。そして太平洋戦争勃発の一九四一（昭和十六）年に住みなれた京都に帰った河上肇は、京都大学に近い質素な家にひっそりと住み、ひとり机にむかって自叙伝の執筆や漢詩に親しむ毎日でした。時には秀夫人が遠く中国に嫁いだ娘さんの看病に出かけた留守をひとりで暮らし、配給の食料品を受取りに行つて自炊生活をしたりもしました。

一九四五年八月十五日、日本は無条件降伏、一〇月には治安維持法の撤廃、特高警察の廃止にもなつて政治犯が獄中から解放され、日本共産党が再建されました。そして翌年一月、戦前から外国で活動していた野坂参三が帰国したことをよるこんで、同志野坂を迎へて」と題する詩を一月十七日に作つたのが河上肇の絶筆になりました。

それからまもなく、一月三〇日、河上肇は栄養不足のため衰えた身体に肺炎をおこして、六十六年の波瀾に満ちた生涯を閉じました。



## 河上肇の足跡

河上肇と共に生きその後も大きな足跡を残



した人たちといえば、教えを受けた蜷川虎三（元京都府知事）をはじめ多数にのぼります。が、立命館総長をつとめた末川博の夫人八重は河上肇夫人秀の妹であり、末川は河上肇記念会の初代会長でもありました。

また、戦後最初の共産党京都市会議員に当選した安井信雄医師は河上肇が京大を辞職する前年に入学、大きな影響を受け、河上肇の晩年は主治医として尽力しています。

河上肇の影響は日本国内にとどまりません。私は今年三月二五日、京大の大西広先生たちと共に中国経済視察旅行で武漢大学を訪問しました。その時、学内では武漢大学党委員会書記の願海良教授（学長よりも上の地位）の歓迎式典が準備されていました。願海良教授との名刺交換の際、教授が、河上肇記念会の方ですか。わが国でも河上肇の書物で学んだ研究者は多く、文化大革命の後河上肇に学ぶ人は多いですよ」という意味のことを話された。

河上肇の生涯をふりかえってみるとき、彼は前人未踏のことに挑戦し、時間はかかっても自力でマルクス主義経済学に到達し、日本の革命運動、労働運動のためにこれを広め、実践したわけです。何事に当たつても自分で考え、追求していく生き方、その意味で河上肇の生涯は多くのこととを教えてくれるのではないのでしょうか。（完）

河上肇記念会は毎年一〇月の墓前祭・総会を法然院で開いています。（今年は一〇月十九日）



1945年孫二人と京都で